

Q & A

問題解決!



南部営農センター
園芸課
検校 哲也

Q1 山や草原では肥料をまいていないのに草花や木が育っています。なぜ、畑では肥料が必要なんですか？

A1 私たちは食事をするので栄養を補給して生きています。植物は、土の中の栄養を水と一緒に吸い上げて生きています。

山林や野原に生えている草花は、だれの手も借りず、自然に育って花を咲かせます。一方、畑にある野菜、花壇の花は、手をかけないと、うまく育ちません。

土の中には、多くの微生物がいます。スプーン1杯(5g)に50億個もいるといわれるバクテリアを始め、カビやキノコなど菌類、加えてアモebaやミミズ、ダニ、ダンゴムシといった動物が活動しています。

バクテリアと菌類は、落葉などの有機物を分解し、腐葉土から腐植へと細かく変化させます。土の中の生き物は、

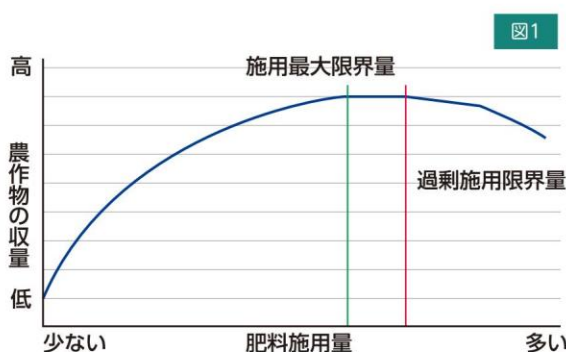
これらのエサを食べ、フンをします。そして、死んだら土にかえります。結果、フンや死骸からの栄養分(窒素、リンなど)が植物の生きる糧(かて)となり、リサイクルが成り立っています。

私たちの畑や花壇は、このリサイクルが成り立っていません。だから、もともとある土の中の養分だけでは足りませんので、肥料で補ってやる必要があります。

葉や茎を育てる窒素(N)、花や実のつきを良くするリン酸(P)、根の発達を促し、莖や葉を丈夫にするカリウム(K)、この3要素が特に必要です。ただし、やり過ぎは注意です。肥料をふってしまったら、戻すことはできません。足りなければ後から追肥すればいいわけです。

肥料を多く施せば、たくさん穫れそうな気がしますが、どこかで頭打ちになって、多すぎると倒れたり病気になるたりします(収量漸減の法則と

言います。図1参照)。肥料要らずの野菜を紹介します。枝豆、パセリ、ピーマン、ニラなどが無肥料でも育ちます。ジャガイモも土寄せすればよく、ミニトマトも可能です。冬野菜なら、ニンジンや白菜、大根もできます。



Q2 アブラムシをスミチオンで防除してしまいがたが、効きが弱くなった気がします。いい薬、ありますか？

A2 アブラムシは、作物の汁を吸う直接の被害のほか、排泄物がかびて

黒いすすになったり、ウイルスを運んできたります。

スミチオンは、昔からある農薬で、野菜、果樹、花、庭木につく多くの種類の虫に対して幅広く使われています。使い勝手の良いことから何度も散布して、だんだん効かなくなることはよくあることです。虫が薬剤抵抗性を発達させ農薬が効かなくなったわけです。どんな農薬でも連続して使うと効きが弱くなります。

ローテーション防除をしましょう。効き方の違う農薬を輪番で使います。効き方は農薬のラベルに書いてあるRACコードを見ます。農薬の効き方ごとに分類して番号と記号を振ったコードです。

スミチオンは1Bです。モスピランは4A、コルトは9Bです。これら3剤は効き方が違うので、スミチオンに対する虫の抵抗性が発達しても、モスピランへの抵抗性はないので効きます。同じく、コルトも効きます。違う農薬というところで、オルトランを使ってみます。効きませぬ。スミチオンと同じ1Bでした。

ここまで紹介した薬剤はすべてアブラムシの殺虫剤です。RACコードを見て、効き方の違う農薬を組み合わせ、ローテーション散布しましょう。



オンライン
農業塾は
こちら

動画はコチラ



管内の
病害虫
情報は
こちら



家庭菜園
情報は
こちら

